

りんご黄色晩生品種「はるか」の特性

黄色晩生品種「はるか」の青森県での果実特性を明らかにしたので紹介します。

来歴

育成者：横田清氏（岩手大学農学部）

品種登録年：平成14年3月

交配親：「ゴールドデリシャス」の自然交雑実生

果実特性（有袋栽培）

- 収穫期は11月中旬で、「ふじ」よりやや遅いです。
- 大きさは300g程度で、果形は長円錐形です。
- 果皮色（有袋果）は黄白色です。
- 果肉の硬度は17ポンド、糖度は17%程度、酸度は0.31g/100mL程度で、甘味で蜜が入ります。
- 貯蔵期間は普通冷蔵で3か月程度です。3か月を越えて貯蔵すると、果肉褐変や果皮のしわが発生することがあります。
- 有袋果でもこうあ部及びがくあ部にさびが発生します。
- つる割れの発生はほとんどありませんが、ビターピットや心かびが見られることがあります。

収穫時の果実品質

年次	収穫日 (月/日)	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (°Brix)	酸度 (g/100mL)	ヨード (0-5)	蜜入り (0-5)
2017	11/14	271	17.3	16.2	0.33	0.5	2.7
2018	11/15	295	16.5	15.0	0.26	0.7	3.0
2019	11/13	286	18.6	18.4	0.37	2.3	2.0
2020	11/11	297	17.5	15.7	0.25	1.4	2.6
2021	11/8	272	17.0	18.0	0.34	1.1	0.8
2022	11/10	324	19.0	17.1	0.29	0.9	1.4
平均	11/11	291	17.7	16.7	0.31	1.2	2.1

(注) 1 ヨードでんぷん反応：0(染色なし)、1(10%以下)、2(20%程度)、3(果心線からやや外側)、4(果心線まで)、5(全面染色)
2 蜜入り：0(なし)、1(極小)、2(小)、3(中)、4(大)



有袋果

果実外観



無袋果



有袋果



無袋果

つるさびの様子

その他の特性

- 開花日及び満開日は「ふじ」とほぼ同じです。
- 樹勢は中程度で、収穫前落果はみられません。
- S遺伝子型は S_2S_9 で、「ふじ」、「つがる」、「王林」とは結実しますが、「トキ」や「金星」とは結実しません。
- 花粉量は多く、低温でも発芽しやすいです。

(りんご研フラッシュ第5号「りんごにおける品種ごとの花粉発芽下限温度と花粉量」を参照)

(https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2021091000029/files/ringo_flash_4.pdf)

栽培上の留意点

- 無袋栽培ではさびが発生しやすく、果点が目立ち、陽向面が赤斑状に着色しますが、有袋栽培にすることで抑えることができます。
- 有袋栽培では、6月上旬に幼果への小袋掛けを行い、7月10日頃までにはるか専用袋に掛け替えて収穫まで被袋します。
- 熟期が11月中旬と遅いので、樹上で果実凍結することがあります。
- 病害虫の発生は通常の防除で問題ありません。
- 摘果の強さは「ふじ」と同程度の4頂芽に1果とします。

お問い合わせ りんご研究所 品種開発部 (TEL 0172-53-6131)

詳細は、「りんご黄色晩生品種「はるか」の特性」

<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2019050800018/files/R6-ks4.pdf>をご参照ください

